

安全な鉄道の実現に向けた教育(ソフト面)の取り組み

● 鉄道従事員への教育方針

「鉄道従事員として、自らの知識・技能の習得に努め、安全・安心・快適な鉄道であるための使命を果たせる人材を育成する」という教育方針に基づいて部署・職位別の教育訓練を行っています。

実務に即した訓練など専門分野に関するものや、部門共通の研修などを通じて、鉄道従事員の資質の向上に努めています。

主な設備

● 運転シミュレータ

CG映像を活用した運転士訓練機能および車掌訓練機能があります。昼夜・降雨などさまざまな条件が設定でき、乗務員の教育や異常時対応訓練などを行っています。



訓練の様子(上)、
ホームドアの訓練装置(下)

● 駅業務訓練室

駅で使用している自動券売機や自動改札機などを設置し、業務の習得や接遇向上訓練を行っています。



駅業務訓練室

● 鉄道教習所における教育

鉄道教習所は、国土交通大臣指定の動力車操縦者の養成所として運転士に必要な知識・技能の教育を行っているほか、事故事例のパネルやCAI(コンピュータ支援教育)教材の製作など、教育施設の充実を図っています。

● ホーム訓練室

実際のホームを模擬し、列車非常停止ボタンや転落検知装置などの機器を使用して、異常時における迅速かつ的確な対応ができるよう訓練を行っています。



ホーム訓練室

● 駅係員信号取扱訓練室

列車ダイヤが大きく乱れたときなどに実施する、信号操作の取り扱い(てご操作)訓練を行います。



駅係員信号取扱訓練室

安全な鉄道の実現に向けた教育(ソフト面)の取り組み

●電気係員連動訓練室

信号機や転てつ器の動作に係る通信機器の訓練室です。



電気係員連動訓練室

●CAI(コンピュータ支援教育)教室

鉄道の仕組みや事故防止についてCGを活用して講義を行うための教室です。受講者は苦手科目などを個別に学習できるほか、教師は遠隔操作で各受講者の進捗の確認やテストの配信を行うことができます。



CAI教室

●事故展示室

主な事故事例を年表形式にまとめた「鉄道事故年表」をはじめ、個別の事例について当時の写真や新聞記事、略図を用いて解説したパネルが展示してあります。

過去の事故を教訓として再発防止を深く認識するために設けています。



事故展示室

●運転士の養成

運転士になるためには、駅係員、車掌を経験し、国土交通大臣指定の動力車操縦者の養成所である鉄道教習所で学科講習と技能講習をあわせて約8カ月間受け、試験に合格しなければなりません。運転士になった後もフォロー教育および監督者による定期的な添乗指導などを行い、知識・技能の維持・向上を図っています。

入所から運転免許交付までの流れ

入所

学科講習
(3カ月間)

- 運転士の使命
- 運転法規
- 車両構造
- 検査修繕
- 運転のしくみ
- 線路や信号・電気設備
- 運転シミュレータ

学科修了試験

技能講習
(4.5カ月間)

- 指導操縦者とのマンツーマンによる運転技能訓練
- 線路・信号条件
- 車両点検
- 異常時の対応や応急処置等

技能修了試験

国土交通省より運転免許交付

●運輸安全マネジメント教育

鉄道事業本部の鉄道従事員全員(保守業務の委託先社員を含む)に対して、安全管理規程や安全重点施策の周知を中心とした運輸安全マネジメント教育を実施しています。会社の安全に対する取り組みや、実際に発生した事故事例を扱うなど安全意識の高揚を図っています。

●ヒューマンエラー防止に向けた教育

鉄道事業本部の各職場では、ヒューマンエラーを起因としたトラブルの原因を、職場内のグループ毎に、新QC7つ道具のひとつである「連関図法」により分析し、再発防止策を「系統図法」により立案する取り組みを実施しています。

安全な鉄道の実現に向けた教育(ソフト面)の取り組み

■ 協力会社への教育

軌道・土木・建築、電気、車両などの保守管理や施設改良工事を委託する協力会社の社員に対し教育を実施しています。触車事故を受け、線路内作業手順を見直し、協力会社の社員一人ひとりに対して教育を行い再確認をすると共に、安全パトロールを実施するなど、教訓を忘れず再発防止に取り組んでいます。

■ その他の教育

地元消防署と東京救急協会の協力により、定期的に救命講習を開催し、現在鉄道事業に従事する社員の約2/3が救命技能認定証を取得しています。



救命講習

■ 安全講演会の実施

2013年2月、(公財)鉄道総合技術研究所 人間科学研究部長 鈴木浩明氏を講師にお迎えして、「ヒューマンエラー事故防止に向けて」と題し、開催しました。社長はじめ、京王グループ会社(請負工事施工会社含む)の社員が参加しました。



安全講演会

■ 総合防災訓練

● 鉄道事業本部総合事故復旧訓練

毎年、脱線などさまざまな鉄道事故を想定し、現場の復旧、通報・連絡・お客さまの避難誘導などの訓練を実施しています。2012年11月、稲城消防署と多摩中央警察署の協力をいただき、京王線の若葉台車両基地において、列車が踏切道上で障害物と衝突し脱線したとの想定のもと、実施しました。



総合事故復旧訓練

● 防災訓練

地震の発生を想定し、列車の緊急停止などの訓練を定期的に実施しています。

■ その他の主な訓練

各現場職場において、定期的に教育訓練を実施しています。

● 鉄道営業部

駅係員は転てつ器が故障した場合の対応訓練、乗務員は踏切事故を想定した訓練などを実施しています。

また、最寄りの消防署・警察署と合同で、テロや列車火災発生を想定した避難誘導・通報訓練や、地下鉄での火災を想定した初期消火訓練なども実施しています。



調布駅での火災訓練の様子

● 工務部・車両電気部

各職場単位で定期的に、レールの折損や架線の断線、信号機の倒壊、列車の脱線などの復旧やクレーン等の取り扱い、機器の故障処置訓練などを行っています。